

部局名	産業活力部	所属名	八千代ふるさとステーション	所属長名	尾崎 隆	電 話	488-6711
-----	-------	-----	---------------	------	------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3627		事務事業名称	ふるさとステーション運営事業					短縮コード	経常	3627	臨時	3713
予算区分	会計	01	一般会計	款	06	農林水産業費	項	01	農業費	目	08	ふるさとステーション費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		八千代ふるさとステーション設置条例 八千代ふるさとステーション定期利用者会							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
やちよふれあいの農業の郷計画として、市内産農産物の紹介や、研修の場として八千代ふるさとステーションが開設された。 同時に、農業体験と各種イベント等を実施し、農業生産者と都市住民とのふれあい促進を図るため、各テナントの責任者で組織する八千代ふるさとステーション定期利用者会を設けた。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	5本の柱（章）	05	産業活力都市をめざして						
市民の農業体験への関心が高まっているため、八千代の梨狩り、お米作り、さつまいも収穫、いちご狩り体験等を実施した。収穫体験の関心は益々高まる見込みであるため今後も推進したい。					大項目（節）	01	農業						
					中 項 目	01	農業						
					小項目（施策）	06	市民とふれあう農業の推進						
					細 項 目	02	市民と農家との交流						
				実 施 計 画 の 計 画 事 業									
計画事業の位置付けの有無			☐	計 画 事 業 期 間		平成21年4月 ～ 平成22年3月		計 画 事 業 費		千円			

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	市民及び利用者							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成21年度に実際に行ったこと： 各体験教室で農業体験、イベント等で八千代産の農作物・特産物の紹介及び販売。							
	※平成22年度に計画していること： 前年事業に引き続き、さつま芋，そら豆，じゃがいも等の収穫体験等の農業体験ツアーを計画							
意図 （何を狙っているのか）	1．農業及び自然との触れ合い体験が出来る 2．八千代の農業を知ってもらう							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	2 0 年度	2 1 年度		2 2 年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標 1	利用者数（レジ通過者の人数）	人	784,977	800,000	777,250	800,000	
	指標 2							
	指標 3							
活動指標	指標 1	各種農業体験教室数	回	12	12	11	8	
	指標 2	各種イベント数	回	4	4	4	4	
	指標 3							
成果指標	指標 1	教室参加率（農業体験等関連教室への参加者延べ人数）	%	100	100	100	100	
	指標 2	農業関連イベント時の来館者延べ人数（レジ通過者の人数）	人	27,855	30,000	23,080	22,000	
	指標 3							
上位成果指標	指標 1							
	指標 2							
	指標 3							

コード	3627	事務事業名称	ふるさとステーション運営事業				所属名	八千代ふるさとステーション
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			「ふれあいの農業の郷」計画の中で、島田地区と併せて指定管理者制度の導入を検討する			
		☒ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			・「ふれあいの農業の郷」建設に併せて指定管理者制度の導入を検討していきたい。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☐		
			不 変	☐	☒	☐		
低 下	☐		☐	☐				

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など	
農業体験等の事業を継続して欲しい。	

所属長コメント	農業とのふれあいや農業体験等の希望者が多いことから、近隣の米本農事組合法人や島田農事組合法人との連携を図りながら行っていきたい。	
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続	施設の管理運営については、「ふれあいの農業の郷」と併せて検討すべき。
	☒ 手法プロセスの改革・改善	
	☐ 事業規模の拡大・縮小	
	☐ 統合・役割見直し	
☐ その他		
☐ 廃止・休止		
☐ 事業完了		
☐ 現状のまま継続		